

ISSN 0439-1713

弘前大学

教育学部紀要

第 128 号

令和 4 年 10 月

Bulletin of the Faculty of Education

Hirosaki University

No. 128

October 2022

弘前大学教育学部

Hirosaki, Japan

目 次

島根県立図書館所蔵の貝原益軒著作資料について……………	郡	千寿子	(1)
「言葉による課題解決力」を育てる国語科説明的文章指導……………	田 中	拓 郎	(7)
— 「読み書き関連指導」と「情報活用指導」に着目して —			
ホタテガイの閉殻筋とマイコンボード Arduino を用いた……………	岩 井	草 介	(19)
簡便な電気刺激筋収縮実験	細 川	瑞 希	
	齋 藤	和 哉	
「主体的な学び」の言葉がもたらす陥穽と音楽教育の意義……………	清 水	稔	(27)
— 疑似的に一般化された用語を哲学の視点から問い直す —			
弘前大学教育学部附属中学校における体力の現状について……………	益 川	満 治	(39)
	工 藤	武 志	
	對 馬	慎太郎	
	羽 村	麻 美	
	高 森	洋 平	
大学生の運動習慣に与える運動セルフ・エフィカシーの影響……………	古 川	冬 真	(45)
— 過去の体育授業における高揚感の享受との関連 —	益 川	満 治	
機械漉きで作製されたりんご剪定枝和紙の物性……………	八 島	光 勇	(51)
	東	真 央	
	廣 瀬	孝 之	
	山 科	則 之	
小学校教員の技術リテラシーの形成状況と技術科の内容を含む……………	久保田	悠 生	(55)
授業に対する意識等との関連	上之園	哲 也	
中学校英語検定教科書の語彙的分析……………	佐 藤	剛	(65)
— 小中連携した英語教育を目指して —	伊 藤	こころ	
	内 海	里 菜	
	大 島	梨理香	
	佐 藤	ゆ き	
	瀧 本	遥 陽	
	竹 谷	もも香	
	村 木	歩乃佳	
第二言語 WTC と外国語学習不安の相互作用における心理的レジリエンス……………	野 呂	徳 治	(75)
— 3つの時間尺度モデル —			
スペシャルオリンピックス日本のコーチ研修プログラムで示されている……………	時 本	英 知	(83)
知的障害者支援の専門性についての検討	葛 西	崇 文	
	増 田	貴 人	
教育学部生の教育実習前後における教職志望度の変化に関する研究……………	清 野	あかり	(95)
— 教育実習経験及びレジリエンスの観点から —	原	郁 水	
大学生のマウンティング行為が受け手に与える影響……………	幸 山	知 聖	(105)
	原	郁 水	
ヤングケアラーと子どもの貧困……………	吉 田	美 穂	(113)
— 青森県の定時制・通信制高校生調査を踏まえて —	越 村	康 英	
ウェルビーイングの測定と理論……………	桐 村	豪 文	(123)
— アレクサンドロワの議論を中心に —			

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部 研究推進委員会 紀要編集担当

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 原則として各年度の10月及び3月の年2回 Web 版で発行する。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部または教職大学院の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて組上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 掲載順序など、編集に関することは本委員会紀要編集担当が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が10ページを超える場合や図版の作製などに特別の経費を要する場合は、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷やCD-ROMを希望する場合は、投稿の際に必要な数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は電子化された論文を「弘前大学学術情報リポジトリ」にて公開する。

この規定は、令和2年11月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したUSBメモリ、CD-R等を添付すること。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則として一つずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるような明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」と「原稿受領書」を添付し、本委員会紀要担当者に確認を受ける。

研究推進委員会 紀要編集担当

人文・社会系列 土屋 陽子

自然・応用系列 櫻田 安志

教育・臨床系列 田中 完

芸術・体育系列 小田 直弥

弘 前 大 学
教 育 学 部 紀 要
第128号
(2022年10月)

令和4年10月31日発行
編集兼発行者
弘前大学教育学部
弘前市文京町1番地
電話 (0172) 36-2111(代)
印刷所 小野印刷
弘前市富田町52
電話 (0172) 32-7471(代)

CONTENTS

Survey report of materials written by Mr. Ekken Kaibara in the Shimane Prefectural Library	Chizuko KOHRI	(1)
Explanatory Text Instruction in the Japanese Language Course to Develop “Problem-solving Skills with Words” —Focusing on “Reading and Writing Instruction” and “Information Utilization Instruction”—	Takuo TANAKA	(7)
A Simple Experiment for Electrically-Stimulated Muscle Contraction Using Scallop Adductor Muscle and Microcontroller Arduino	Sosuke IWAI Mizuki HOSOKAWA Kazuya SAITO	(19)
The Pitfall of the Japanese Term "Shutai-teki" and the Significance of Music Education: Questioning pseudo-generalized terms from a philosophical perspective	Minoru SHIMIZU	(27)
The Current State of Physical Fitness in Junior High Schools Attached to the Hirosaki University Faculty of Education	Mitsuharu MASUKAWA Takeshi KUDOH Shintaro TSUSHIMA Asami HAMURA Youhei TAKAMORI	(39)
The Impact of Exercise Self-Effectiveness on College Students' Exercise Habits —In Relation to the Enjoyment of Euphoria in Past Physical Education Classes—	Toma KOGAWA Mitsuharu MASUKAWA	(45)
Properties of paper made from apple pruned branches..... by mechanical papermaking	Mitsutoshi YASHIMA Mao AZUMA Takashi HIROSE Noriyuki YAMASHINA	(51)
Relationship between the technological literacy..... of elementary school teachers and awareness of lessons including the contents of technology education	Yusei KUBOTA Tetsuya UENOSONO	(55)
Analysis of Vocabulary in Junior High School English Textbooks: Regarding Linkage of English Education Between Elementary School and Junior High School	Tsuyoshi SATO Kokoro ITO Rina UTSUMI Ririka OSHIMA Yuki SATO Haruhi TAKIMOTO Momoka TAKEYA Honoka MURAKI	(65)
Psychological Resilience in the Interaction of L2 Willingness to Communicate and Foreign Language Anxiety: The Three Time Scales Model	Tokuji NORO	(75)
The research of expertise about support for people with intellectually challenging in the coach training program that Special Olympics Nippon conducted	Eichi TOKIMOTO Takafumi KASAI Takahito MASUDA	(83)
Changes in Teaching Aspirations Before and After the Teaching Practice of Students in the Faculty of Education —From the Perspective of Experience in Teaching Practice and Resilience—	Akari SEINO Ikumi HARA	(95)
Impact of mounting behavior of college students on recipients	Chisato KOUYAMA Ikumi HARA	(105)
Young Carers and Child Poverty: A Questionnaire Survey Conducted on Aomori Prefectural Part-time and Correspondence High School Students	Miho YOSHIDA Yasuhide KOSHIMURA	(113)
Measurements and theory of well-being	Takafumi KIRIMURA	(123)
: Focusing on Alexandrova's arguments		